

マーケット概況（2024年9月）

9月の債券相場は、前月末の堅調な経済指標を受け米国で早期の大幅利下げ観測が後退した流れを引き継ぎ、10年375回債は前月末比+1.5bpの0.905%で取引を開始した。さらに3日の10年債入札がやや軟調な結果となり、10年375回債の利回りは0.925%まで上昇した。しかし、米国で市場予想を下回る経済指標の発表が相次いだことや、5日の30年債入札を順調に通過したことで債券相場は反発した。一時上値が重くなる場面もあったが、11月の米国大統領選挙に向け10日に行われたテレビ討論会でトランプ氏に対しハリス氏優勢との報道を受け、米国の将来の財政拡大懸念が後退したことから堅調に推移した。19日に開かれたFOMCでは0.5%の大幅利下げが決定したが、直前に織り込みが進んでいたことやパウエルFRB議長が今後の利下げペースは緩やかになると示唆したことで影響は限定的となった。20日の日銀金融政策決定会合では現状の政策維持が決定し、植田総裁が会見で物価動向の上振れリスクが減少しているなどと発言したことから早期利上げ観測が後退し、25日に10年375回債は0.795%と高値を付けた。さらに金融政策緩和派の高市氏が自民党総裁選で優勢との報道を受け中期債の利回りも低下したが、27日の総裁選で石破氏が総裁に選出されたことで反落し、結局10年375回債は0.855%で取引を終えた。

<短国市場>

9月の短国市場は発行減額と積極的な担保玉確保による好需給を背景に積極的な応札が続き、6日の3M1254回債は0.080%台、9日の6M1255回債入札は0.090%台と共に前月比約2.0bp程度の金利低下となり、その後の入札も好需給を背景に19日の3M1258回債では0.050%台まで低下した。27日入札の3M1259回債は年明けの償還となったことから入札前のWI取引で一時-0.030%が取引され、平均落札利回りは0.0047%とほぼ0%近辺まで強含んだが、セカンダリーでは強い買いが続かず、0.045%まで戻して終えた。1Yゾーンは18日の1Y1257回債入札で最低落札利回り0.270%台と前月比約2.0bp金利上昇したが、全ゾーンでの需給ひっ迫を受けて買いが波及し、一時0.180%まで買われ、その後は0.225%まで戻して終えた。

<一般債市場>

9月の定例地方債は、絶対金利の低下やセカンダリーのワイド化を背景に5年債と10年債ともに前月債対比4bpワイド化の国債カーブ対比+10bpでの条件決定となった。10年政保債は国債カーブ対比+8bpの条件決定となり、政保債・地方債のスプレッドは2bpを維持した。その後の入札は、政保債が順調な結果が続いたのに対して、10年大阪府債はタイトな条件決定だったものの、5年大阪府債がやや軟調な結果となり、政保債・地方債スプレッドは拡大傾向となった。17日の社債買入オペは、今後來年中のオペ終了に向けて段階的な減額が予定されていることから、按分落札利回り・平均落札利回りともに過去最高を更新した。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#375	0.905(2日)	0.795(25日)	0.925(3日)	0.855(30日)
#374	0.880(2日)	0.770(27日)	0.905(3日)	0.830(30日)
#365	0.660(2日)	0.560(24日)	0.670(3日)	0.615(30日)
#171-#172(5Y)	0.505(2日)	0.435(27日)	0.530(3日)	0.505(30日)
#189(20Y)	1.730(2日)	1.615(17日)	1.730(2日)	1.670(30日)
#1248-#1255 TDB(6M)	0.105(9日)	0.050(9日)	0.105(9日)	0.100(18日)
#1253-#1259 TDB(3M)	0.060(19日)	-0.030(27日)	0.063(19日)	0.030(27日)